

「言葉の院外処方箋」

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

第 93 回

『「ナショナリズムとインターナショナリズム」 ～ 理性は世界秩序 ～』

2022年1月21日（金）筆者が代表を務める南原繁研究会（第211回）にZoom参加した。メンバーの秋間修 氏、榎木憲一郎 氏の司会で、伊藤貴雄 氏の自由発表「左右田喜一郎または価値並行論②」、近藤信和 氏の読書会発表【『南原繁対話—民族と教育』その①（1-89 ページ）】がなされた。今回、『「すべて歴史というものはそうですが、いわゆる非連続の連続」、「ナショナリズムとインターナショナリズムは、お互いに矛盾するのではなしに、お互いに補うという関係に立たなければならない」、「平和共存をどうしていくか・・・どうして平和を打ち立てていくか・・・やはりそれは人類の理性というものが根本になると思う。それは個人の理性をいうのではなく、理性は世界秩序であり、そして諸国民の文化はそれぞれこの世界秩序の一部である。」』との南原繁の言葉が鮮明に蘇ってきた。純度の高い発表で、大いに勉強になった。筆者の鷺鷥小学校（島根県出雲市大社町）の卒業式での来賓の「ボーイズ・ビー・アンビシャス」(boys be ambitious) 『1877年札幌農学校を率いたウィリアム・クラーク（1826-1886）博士の言葉』のクラーク精神が、後に、内村鑑三（1861-1930）、新渡戸稲造（1862-1933）、南原繁（1889-1974）、矢内原忠雄（1893-1961）の読書遍歴と繋がった。今回は、教育の基軸としての楕円形の心＝「内村鑑三 vs 新渡戸稲造」and「南原繁 vs 矢内原忠雄」の復習でもあった。2021年11月3日の第18回南原シンポジウム（学士会館に於いて）の新刊『南原繁における学問と政治—南原政治哲学を読み直す—』（仮題）が近いうちに発行される予定である。乞うご期待である。

2022年1月22日（土）第1回『中野区がん哲学連絡会』がZoom開催された（主催：東中野キングス・ガーデン 地域交流スペース キングスカフェ 代表：奥山寧 氏）。『中野区がん哲学連絡会』【会長；奥山寧（東中野キングス・ガーデン 地域交流スペース キングスカフェ 代表）、編集長：太田和歌子（がん哲学外来白鷺メディカルカフェ代表） 広報長：小見山博光（中野ひだまりクリニック 院長）、顧問：樋野興夫】の歴史的設立日（2022年1月22日）となった。「ニ

ユスレター創刊号」発行、そして、『設立記念シンポジウム ～ 中野区にゆかりの新渡戸稲造生誕 160 周年記念 ～』の開催の日時が早速決定された(下記)。

日時：2022年7月16日 2:00 pm～

場所：中野キングス・ガーデン

プログラム

来賓挨拶：中野区保健所・中野区社会福祉協議会 etc

奥山 寧：中野区と新渡戸稲造の繋がり

太田和歌子：新渡戸稲造に学ぶ コミュニケーション力

小見山博光：新渡戸稲造に学ぶ 現代医療のあり方

樋野興夫：今、再び 新渡戸稲造！

皆様の『速効性と英断』と『賢明な寛容性』には、ただただ感服である。まさに、『自分の力が 人の役に立つと思う時は 進んでやれ』（新渡戸稲造）の実践であろう。